

令和  
7年度

# 事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 児童発達支援センター大村



○事業所名	COMPASS児童発達支援センター大村		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 10日	～	令和7年 9月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 31名
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 10日	～	令和7年 9月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。 各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。	各担当ごとに事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。 複数の地域に事業所があるため、不明な点は指定権者に確認し、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	児童が楽しみながら通ってくる事業所、成長を感じられる事業所、安心して通ってもらえる事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	保護者様との連携やコミュニケーションが充実しております。	日々子どもたちの様子を、連絡帳および送迎時に保護者様へお伝えし、モニタリング時や来所時にも情報共有をおこなうことで、職員と保護者様との信頼関係の構築に努めております。 また、保護者様限定として、こどもカレンダーを活用し、その日の様子を写真で発信しております。	見学希望の保護者様がおられたら随時見学への対応に努め、児童の様子や関わりをいつでも生で見てもらえるように努めてまいります。
3	児童指導員、社会福祉士、保育士、児童福祉事業経験5年以上の職員、作業療法士、言語聴覚士が常勤職員として在籍し、専門的に支援にあたっております。	基本的な運動動作や口腔訓練をはじめ、協調動作など、児童や保護者様のニーズに沿った支援を提供できるよう工夫しております。	専門職を常勤で配置し、感覚分野(前庭覚・固有覚・触覚)、口腔訓練にアプローチ出来るプログラムをより増やしていけるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員一人ひとりの療育力・専門性の向上など、事業所全体での底上げが必要であると感じております。	個別活動や小集団活動においては児童の様子に応じて臨機応変に支援プログラムを組み立てる力が必要なため、個々の経験や知識によって偏りが生じやすくなっているのが要因だと思われます。	研修に参加できる機会を増やし、強化を図っていくように努めてまいります。 経験のある職員がフォローをおこなう等職員間の情報共有を密におこない、事業所全体で支援方向を検討していくことで質の向上を図っていくことに努めてまいります。
2	保護者様同士の交流の機会がほとんどありません。	働いておられる方も多く、交流の場の設定が難しく交流ができておりません。 療育内容や支援といった「本人支援」に重点を置いており、「地域支援・地域連携」に対する情報収集不足・取り組み不足が要因だと思われます。	ご希望される方もおられるので、交流会を設定していくように努めてまいります。 安全面を考慮しながら、近くの公園等から少しずつ交流の機会を増やしていき、地域の活動等の情報収集をおこなえるように努めてまいります。
3	現在、女性職員は多く在籍していますが、男性スタッフは1名と少ないと思います。	男性職員の求人の応募が少ないことが要因だと考えております。	支援の充実を図るため、男性職員の雇用を積極的に獲得していけるよう努めてまいります。



公表日：令和8年5月8日